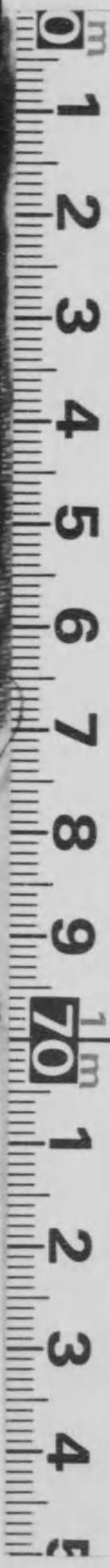


283
18



始



283
18

松山高等學校一覽

自大正八年
至大正九年

受ケタル他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規定	三〇八頁
第七 文部省直轄學校外國人特別入學規程	三八頁
第八 臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用	四〇頁

○規則

松山高等學校規則

第一章 總則	四一頁
第二章 學年、學期及休業	四一頁
第三章 學科課程、授業時數	四二頁
第四章 入學、在學、休學及退學	四六頁
第五章 試業、進級及卒業	四七頁
第六章 授業料	四九頁

第七章 寄宿舎	五〇頁
第八章 圖書及器械	五一頁
第九章 懲戒	五一頁

○細則

第一 校務分掌規程	五三頁
第二 文書處理規程	六〇頁
第三 學級主任規程	六二頁
第四 學級總代規程	六二頁
第五 指導教官規程	六三頁
第六 教官會議規程	六三頁
第七 生徒心得	六四頁
第八 寄宿舎規則	六七頁
第九 生徒服制及服裝規程	六九頁

第十	物品會計規程細則	七三頁
第十一	圖書取扱規程	八〇頁
○職員		八五頁
○生徒		九〇頁
○生徒本籍別調		九七頁
○生徒年齡調		一〇〇頁
○附錄		一〇一頁
	松山高等學校校友會規則	一〇一頁

○沿革略

大正八年

四月十四日 勅令第一百十二號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日勅令第一百十三號ヲ以テ職員ノ員數ヲ校長一人教授十六人書記三人ト定メラル

四月十五日 第三高等學校教授由比質學校長ニ任セララル

四月十六日 文部省令第十三號ヲ以テ本校ノ位置ヲ愛媛縣松山市ニ定メラル同日文部省内ニ假事務所ヲ置キテ事務ヲ開始ス

六月一日 文部省內假事務所ヲ松山市公會堂本校假校舍內ニ移ス

七月三十一日 生徒百六十人ノ入學ヲ許可ス

九月十日 松山市宮古町大林寺ニ於テ本校代用寄宿舍ヲ開始ス

九月十一日 入學式ヲ行フ

○學年曆

九月十一日 第一學期授業始ル
 秋分日(秋季皇靈祭) 休業
 十月十七日(神嘗祭) 休業
 十月三十一日(天長節祝日) 休業
 十一月二十三日(新嘗祭) 休業
 十二月二十四日 第一學期授業終ル
 十二月二十五日 冬季休業始ル
 一月七日 冬季休業終ル
 一月八日 第二學期授業始ル
 二月十一日(紀元節) 休業
 春分日(春季皇靈祭) 休業

三月三十一日 第二學期授業終ル
 四月一日 春季休業始ル
 四月七日 春季休業終ル
 四月八日 第三學期授業始ル
 四月十五日(創立記念日) 休業
 七月十日 第三學期授業終ル
 七月十一日 夏季休業始ル
 九月十日 夏季休業終ル

○關係諸法令

第一、高等學校令

勅令第三百八十九號 (大正七年十二月五日)

高等學校令

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ

得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科

ヲ修了シタル者尋常小學校ヲ卒業シタル者又文部大臣ノ定ムル所

ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常

科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ

定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百

二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ

六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制ス

ヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種

類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免

許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免

許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入

學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閱
 ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除
 クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘ
 キ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止
 ス
 舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
 前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
 高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

第二、高等學校規程

文部省令第八號 (大正八年三月二十九日)

高等學校規程

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物
 物理及化學、圖畫、唱歌、體操トス
 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一	一	一	一
國語及漢文	八	八	六	六
外國語	六	七	七	七

計	體操	唱歌	圖畫	物理及化學	博物學	數學	地理	歷史
二九	三	一	一		二	四		三
三〇	三	一	一		二	四		三
三〇	三		一	二	二	五		三
三二	三		一	四	二	二		三

體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス
國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文

學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ
理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟
セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表
ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス
外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發
達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニ
シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス
歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要
旨トス
地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セ
シムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ
第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシ
ムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授ク
ヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確
ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、
立體幾何、三角法、初等解折幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ
第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ
法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ク又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學、有機化學ヲ授ク又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ク又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ク又便宜上主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ

必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

修身	學年	
	第一學年	第二學年
學科目	一	一
第三學年	一	一

國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(三九)	(三九)	(三八)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語ト
 ス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シ
 ム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每

週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三一)	(三一)	(三〇)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科
 目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ
 依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

學年ハ分チテ三學期トス但シ專攻科ニ在リテハ學期ヲ分タサルコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス
第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節、祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教

授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス
高等科ニ於テハ國語及漢文外國語數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文
部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授ス
ルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教
員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教
授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地校舍體操場及校具ヲ備フヘシ
第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛
生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室事務室其ノ他必要ナル實驗室圖書室器械

室標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書機械器具標本模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表

簿ヲ備フヘシ

- 一 學則日課表及教科用圖書配當表
 - 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表
 - 三 生徒學籍簿出席簿身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵
猶豫ニ關スル書類
 - 四 試驗ノ問題答案及成績表
 - 五 資産原簿出納簿經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書機械器具
標本模型ノ目錄
- 生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名族籍居所生年月日入學前ノ學歷入學轉

學退學ノ年月日及其ノ學年卒業ノ年月日入學試驗ノ有無轉學退學ノ事由徵兵事故保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 名稱
- 二 高等學校令第七條ノ事項
- 三 學則
- 四 各科ノ生徒定數
- 五 位置及校地
- 六 校舍ノ圖面及建設ノ設計
- 七 開校ノ期日
- 八 經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歷史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度

ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
 前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ
 第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學

校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
 - 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 - 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得
 第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢查ヲ行ヒ

之ニ合格シタル者ニ限り入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且ツ前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限り試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ修

了證書ヲ授與スヘシニハ
第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加

フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學

校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 中生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地

方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス
高等中學校規程明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

第三、高等學校高等科入學資格試驗規程

文部省令第九號 (大正八年三月二十九日)

高等學校高等科入學資格試驗規程

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全品行方

正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四、官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

文部省令第十四號 (大正八年四月十九日)

官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

- 第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ
- 第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數選拔試驗ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス
- 第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其一ヲ選ハシム

前項ノ試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選拔試驗ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 文科乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 文科丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 理科甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 理科乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 選拔試驗ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二箇以上同一科内ノ類ニ限ルヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類ニ限ル
- 第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試驗ノ成績順ニ依リ選出ス
 - 二 前號ノ場合ニ於テ試驗成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
 - 三 前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試驗ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス
 - 四 前號ニ依リ配當ノ結果又ハ本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス
 - 五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス
- 前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五、 文部省直轄學校中ノ二箇以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學出願者ノ入學スヘキ學校

文部省告示第二百十三號 (明治四十三年九月六日)

明治三十六年文部省告示第九十六號ヲ改正スルコト左ノ如シ

同一人ニシテ東京帝國大學農科大學農學實科同林學實科同獸醫學實科東北帝國大學農科大學豫科同附設農學實科同附設土木工學科同附設林學科同附設水產學科東北帝國大學附屬專門醫學部同附屬工學專門部並文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學ヲ許可セラレタル學科專門部若ハ學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二箇以上ノ學科專門部若ハ學

校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學科專門部若ハ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

第六

文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄諸學校入學試験無効ニ關スル

規定

文部省令第十八號

(明治三十八年十月二十八日)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

第七

文部省直轄學校外國人特別入學規定

文部省令第十五號

(明治三十四年十一月十一日)

文部省直轄學校外國人特別入學規程

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラズ所定ノ學科ノ一科若ハ數科ヲ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ
必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラ
スニ在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生
ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八、臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特
別入學規定準用

文部省訓令第十六號 (明治四十四年四月四日)

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若ハ朝鮮人ニ之ヲ準用
ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

○規則

松山高等學校規則

第一章 總則

第一條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ高等學校高等
料文科及理科トス

第二條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨語トス

第二章 學年、學期及休業

第三條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 自九月一日至十二月三十一日

第二學期 自一月一日至三月三十一日

第三學期 自四月一日至八月三十一日

第五條 休業日左ノ如シ

一、日曜日

一、祭日及祝日

(秋季皇靈祭、神嘗祭、天長節、祝日、新嘗祭、紀元節、春季皇靈祭)

一、冬季休業

自十二月二十五日至一月七日

一、春季休業

自四月一日至四月七日

一、夏季休業

自七月十一日至九月十日

一、本校創立記念日 四月十五日

第三章 學科課程授業時數

第六條 學科課程及每週教授時數左ノ如シ

文科

修身	學科目		第一學年	第二學年	第三學年
	學科	年			
一	國語及漢文	第一	六	五	五
一	第一外國語	第一	九	八	八
一	第二外國語	第一	(四)	(四)	(四)
一	歷史	第一	三	五	四
一	地理	第一	二		
一	哲學概說	第一			三
一	心理及論理	第一		二	二
一	法制及經濟	第一		二	二
一	數學	第一	三		
一	自然科學	第一	二	三	
一	體操	第一	(三) 劍道、柔道、體操	(三) 同上	(三) 同上
一	計	第一	(二九) (三三)	(二九) (三三)	(二八) (三三)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語ト
 ス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シ
 ム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每

週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三一) (三四)	(三一) (三四)	(三〇) (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

理科

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	一
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數	四	四	(二) 四

第三學年ノ數學(二)及圖書(二)ト第三學年ノ植物及動物(講議二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
 第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

體操	圖畫	法制及經濟	心理	礦物及地質	植物及動物	化學	物理	計		
								第一學年	第二學年	第三學年
		二		二	二			(二八) (三二)	(二八) (三二)	(二八) (三二)
								(三) (同上)	(三) (同上)	(三) (同上)
										(二) (二)
										(四) 實驗(二)
										(五) 講議(三) 實驗(二)
										(五) 講議(三) 實驗(二)

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三〇)	(三一)	(三一)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第四章 入學、在學、休學及退學

第七條 入學檢定料ハ金五圓トス

第八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マテニ戶籍謄本履歷書及資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添へ本校ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ期日ヲ經過シタル者ニ關シテハ其ノ入學ノ許可ヲ無効トス

既納ノ入學檢定料及入學料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ期日迄ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第十條 保證人ニ於テ住所ヲ變更シ或ハ改印スル等ノ事由發生シタル時ハ直ニ其旨届出ツヘシ

保證人死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書ヲ更新スヘシ

第十一條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他校ノ入學若クハ選拔試験ヲ受クル事ヲ得ス

第十二條 生徒疾病若クハ己ムヲ得サル事由ニ因リ休學若クハ退學セント欲スルトキハ保證人連署ノ上其ノ旨願出ツヘシ

休學ノ期間ハ二學年ニ跨ルコトヲ得ス
疾病ニ因ル場合ニ於テハ診斷書ヲ添付スヘシ

第五章 試業、進級及卒業

第十三條 試業ハ學期試業及學年試業ノ二種トス

但臨時試業ヲ行フコトアルヘシ

第十四條 評點ハ一百ヲ以テ滿點トス

學期試業ハ第一學期及第二學期末ニ之ヲ行ヒ其ノ學期中ニ履修シタル學業ヲ檢查シ學年試業ハ學年末ニ之ヲ行ヒ其ノ學年中ニ履修シタル學業ヲ檢查ス

第十五條 各學科目ノ評點ハ學年評點ニ學期評點ヲ加ヘ三除シタルモノトス

第十六條 正當ノ事由ニヨリ試業ニ缺席シタル者ノ採點ハ平常若クハ他ノ學期ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ進級セシム
但平素ノ行狀及勤惰ノ狀況ニ依リ特別ノ詮議ヲナスコトアルヘシ
一、各科目ノ評點六十點以上ヲ得タル者

一、一科目ノ評點四十點以上六十點未滿ナルモ其ノ他ノ科目各六十點以上ニシテ且各科目總平均六十點以上ヲ得タル者

一、二科目ノ評點五十點以上六十點未滿ナルモ其ノ他ノ科目各六十點以上ニシテ且各科目總平均六十點以上ヲ得タル者

第十八條 同一學年ニ於テ二回以上進級セサル者ハ之ヲ除名ス
但兵役其ノ他ノ事情アルモノニ對シテハ特別ノ詮議ヲナスコトアルヘシ

第十九條 學年成績ハ其ノ學年ニ於ケル各科目ノ評點ヲ平均シテ之ヲ定メ卒業成績ハ各學年成績ヲ平均シテ之ヲ定ム

第六章 授業料

第二十條 授業料ハ一學年金參拾五圓トス

第二十一條 授業料ハ之ヲ分納セシム

各學期ノ分納金及其ノ納期ハ左ノ如シ

第一學期 金拾五圓 自九月十五日至同月二十一日

第二學期 金拾圓 自一月十五日至同月二十一日

第三學期 金拾圓 自四月十五日至同月二十一日

第二十二條 休學中又ハ停學中ノ者ト雖モ授業料ハ之ヲ免除セス

但陸海軍兵役ニ服スル者ハ此ノ限ニアラス

既納ノ授業料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第二十三條 所定ノ期日内ニ授業料ヲ納付セサル者ニ對シテハ授業

停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七章 寄宿舎

第二十四條 新入生徒ハ總テ之ヲ寄宿舎ニ收容ス

但疾病其ノ他ノ理由ニヨリ通學ヲ願ヒ出テ許可ヲ得タル者ハ此限

ニアラス

寄宿スヘキ生徒數所定ノ員數ヲ超過スルトキハ外泊ヲ命スルコト

アルヘシ

第二十五條 寄宿料ハ一ヶ月金壹圓トス毎月定日ニ納付セシム

但七八ノ兩月ハ徴收セス

第二十六條 寄宿生ニシテ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ退舎

セントスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第八章 圖書及器械

第二十七條 圖書ハ圖書館ニ貯藏シ職員生徒ヲシテ閲覧セシム圖書

ハ之ヲ館外ニ搬出スルコトヲ得ス

但授業上研究上必要ナル場合ニ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第二十八條 器械ハ教室實驗室其ノ他所定ノ場所ニ備付ク器械ハ之

ヲ所定ノ場所外ニ搬出スルコトヲ得ス

但授業上研究上必要ナル場合ニ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第九章 懲戒

第二十九條 總テ生徒ノ本分ヲ缺ク者ハ其ノ輕重ニ從ヒ譴責停學若クハ退學ニ處ス

附則

專攻科ハ當分之ヲ置カス
本則施行上更ニ細則ヲ定ムルコトアルヘシ

○細則

第一、校務分掌規程

第一條 校務ヲ分テ教務課、生徒課、圖書課、庶務課及會計課トス

第二條 教務課ニ教頭ヲ圖書課ニ圖書課長ヲ庶務課ニ庶務課長ヲ置

キ教授中ヨリ學校長之ヲ命ス

生徒課長ハ生徒監、會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ任ス

第三條 教頭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌理ス

生徒監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

圖書課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌理ス

庶務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

會計課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條 各課所要ノ勤務員ハ學校長適宜ニ之ヲ命ス

第五條 一學科ニ教官二人以上アルトキハ學科主任ヲ置キ各學級ニ學級主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス。學科主任ハ當該學科授業ニ關スル事務ヲ掌リ學級主任ハ擔任學級生徒ヲ監督ス。

第六條 學科主任及學級主任ノ擔任事項左ノ如シ

- 一 當該學科ノ教授ニ關スル一切ノ事項
- 一 當該學科ニ屬スル備品ノ保管、消耗品ノ受拂ニ關スル事項
- 二 學級主任
 - 一 擔任學級生徒ノ勤惰ニ關スル事項
 - 一 擔任學級生徒ノ出缺ニ關スル事項
 - 一 擔任學級生徒ノ學業成績ニ關スル事項
 - 一 擔任教室ノ備品保管ニ關スル事項

一 其他擔任學級生徒ニ關スル一切ノ事項

第七條 教務課主管事務左ノ如シ

- 一 學科課程教授要目教科用圖書及授業時間ニ關スル事項
- 一 教室及教官室ニ關スル事項
- 一 學級編成ニ關スル事項
- 一 試業、進級及卒業ニ關スル事項
- 一 生徒ノ學籍簿ニ關スル事項
- 一 生徒出席簿ニ關スル事項
- 一 成績表及成績證明ニ關スル事項
- 一 選拔試驗及入學ニ關スル事項
- 一 野外演習射擊演習及修學旅行ニ關スル事項
- 一 生徒ノ休學、退學、除名ニ關スル事項
- 一 在學證明、品行證明及兵役ニ關スル事項

- 一 卒業生ノ大學進入ニ關スル事項
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 參觀人ノ取扱ニ關スル事項
- 一 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第八條 生徒課主管事務左ノ如シ

- 一 生徒ノ監督指導ニ關スル事項
- 一 生徒ノ缺席、缺課、遲刻ニ關スル事項
- 一 學校衛生ニ關スル事項
- 一 生徒ノ通學及宿所ニ關スル事項
- 一 生徒ノ衛生及身體檢查ニ關スル事項
- 一 生徒ノ集會ニ關スル事項
- 一 生徒ノ揭示ニ關スル事項
- 一 生徒ノ入舍退舍ニ關スル事項

- 一 寄宿舍ノ警備及衛生ニ關スル事項
- 一 寄宿舍ノ炊事監督ニ關スル事項
- 一 生徒ノ訓誨及懲戒ニ關スル事項
- 一 其ノ他生徒訓育及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項

第九條 圖書課主管事務左ノ如シ

- 一 圖書ノ保存及整理ニ關スル事項
- 一 圖書目錄ニ關スル事項
- 一 圖書貸付ニ關スル事項
- 一 書庫及圖書閱覽室ニ關スル事項
- 一 圖書ノ購入修繕ノ計劃ニ關スル事項
- 一 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十條 庶務課主管事務左ノ如シ

- 一 御眞影及勅語ノ保管ニ關スル事項

- 一 校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スル事項
- 一 職員ノ進退身分及服務ニ關スル事項
- 一 職員ノ叙位叙勳ニ關スル事項
- 一 職員ノ願届ニ關スル事項
- 一 規則及命令ニ關スル事項
- 一 學校一覽ニ關スル事項
- 一 官報報告其ノ他ノ報告ニ關スル事項
- 一 卒業生ニ關スル事項
- 一 文書ノ接受及發送ニ關スル事項
- 一 公文書類ノ整理保存ニ關スル事項
- 一 寄附願ニ關スル事項
- 一 儀式ニ關スル事項
- 一 宿直ニ關スル事項

一 重要事項ノ記録ニ關スル事項
 一 其ノ他他課ニ屬セサル一切ノ事項

第十一條 會計課主管事務左ノ如シ

- 一 歳入歳出ノ豫算決算及出納ニ關スル事項
- 一 資金ニ關スル事項
- 一 官有財産ニ關スル事項
- 一 物品ノ買入賣拂貸借及修理ニ關スル事項
- 一 土地建物ノ營繕ニ關スル事項
- 一 物品ノ出納及保管ニ關スル事項
- 一 會計検査ニ關スル事項
- 一 備人ニ關スル事項
- 一 物品檢閲ニ關スル事項
- 一 校内ノ警備及衛生ニ關スル事項

一會計ニ屬スル公文書類ノ整理及保存ニ關スル事項

一其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

第十二條 各課ノ擔任事項ニシテ他課ニ關聯スルモノニ付テハ各課ノ合議ニヨリテ之ヲ處理スヘキモノトス

第十三條 各課ニ於テ處理セル重要事項ニ就キテハ其ノ都度遺漏ナク之ヲ他課ニ通告シ且其ノ概要ヲ學校長ニ具申スヘキモノトス

第二、文書處理規程

第一條 本校ニ到達スル文書ハ庶務課ニ於テ接受シ受付簿ニ登記シ文書ニ番號及收受月日ヲ記載シテ直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ證印ヲ徵スヘシ

第二條 親展書ハ封緘ノ儘宛名ニ配付シ證印ヲ徵スヘシ

第三條 校長ヨリ直接授ケラレタル文書ニシテ受付簿ニ登記未済ノ

モノハ登記ノ手續ヲ求ムヘシ

第四條 各課ニ關聯スル事件ノ文書ハ關係ノ重キニ從ヒ之ヲ配付スヘシ

第五條 配付ヲ受ケタル文書ハ速ニ之ヲ調査シ處分案ヲ提出スヘシ

第六條 決裁ヲ受ケントスル文書ニシテ他課ニ關聯スル事件ハ該課ニ合議スヘシ

第七條 決裁済ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ處理ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 發送ヲ要スル文書ハ庶務課ニ回付スヘシ執務時間以外ニ發送ヲ要スル文書アルトキハ當直ニ回付スヘシ

第九條 庶務課ニ於テハ發送文書及原議ニ番號ヲ付シ之ヲ件名簿ニ登記スヘシ

第十條 庶務課ニ於テ郵便電信ヲ發送シタルトキハ月日、受信名、發信

名料金を登記シ取扱主任檢印スヘシ

第十一條 事件ノ完結シタル文書ニシテ各分課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ庶務課ニ回付スヘシ
前項ニ依リ回付セラレタル文書ハ庶務課ニ於テ編纂シ之ヲ保存スヘシ

第三、學級主任規程

第一條 各學級ニ主任一名ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ任命ス
第二條 學級主任ノ任期ハ一學年間トス
第三條 學級主任ハ生徒監及指導教官ト連絡シテ當該學級生徒ヲ監督シ其ノ一致共同ヲ計リ學德ノ向上發展ニカムヘシ

第四、學級總代規程

第一條 各學級ニ正副總代各一名ヲ置ク

第二條 總代ハ當該學級生徒ヲシテ互選セシメ學校長之ヲ命シ其ノ任期ヲ一學年間トス
但第一年級ニ在リテハ此規程ニヨラサルコトアルヘシ

第三條 總代ハ當該學級ニ於テ校規命令ノ實行ニカメ教室内ノ秩序ヲ保持スヘシ

第五、指導教官規程

第一條 生徒若干名ニ對シ指導教官一名ヲ配シ教官中ヨリ學校長之ヲ依囑ス

第二條 指導教官ノ任期ハ擔當生徒在學中トス

第三條 指導教官ハ學級主任及生徒監ト連絡シテ擔當生徒ノ一身上ニ關シ細大トナク指導誘掖ノ任ニ當ルモノトス

第六、教官會議規程

一本會ハ教官全部ヲ以テ組織シ學校長之カ議長トナル

但議事ノ都合ニ依リ他ノ職員ヲモ列席セシムルコトアルヘシ

一本會ニ於テ審議スヘキ事項左ノ如シ

一 學科課程ニ關スル件

二 試験ニ關スル件

三 設備ニ關スル件

四 生徒ノ訓育ニ關スル件

五 其他學校長ニ於テ臨時諮問ヲ要スル事項

一本會ハ毎月一回之ヲ開クヲ例トシ其ノ日時場所等ハ學校長ノ命ヲ

受ケ教務課ヨリ通知ス

第七、生徒心得

第一條 本校生徒ハ教育ニ關スル聖旨ヲ服膺シ以テ立身報國ノ基ヲ

建ツヘシ

第二條 本校生徒ハ國民道德ノ涵養ニ力メ以テ人格ノ完成ヲ期スヘシ

第三條 本校生徒ハ左ニ掲クル諸項ヲ遵守スヘシ

一 校則ヲ嚴守シ師長ヲ尊敬スルコト

二 學術ヲ研修シ思想ヲ洗煉スルコト

三 志操ヲ高潔ニシ威儀ヲ正シクスルコト

四 起居飲食ヲ慎ミ身体ヲ強健ヲ計ルコト

五 信義ヲ尊重シ交友ト親和スルコト

六 質實剛健ヲ旨トシ華奢放縱ノ風アルマシキコトモ

第四條 諸揭示ハ其ノ當日ヨリ一般ニ知了セルモノト認ムルニヨリ

常ニ之ニ注意スヘシ

第五條 授業若クハ儀式ノ爲登校スルトキハ必ス本校規定ノ服装ヲ

ナスヘシ
第六條 校舎内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食又ハ喫煙スヘカラス

第七條 凡テ揭示ヲナサントスルトキハ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 教室ニ入ルトキハ必ス脱帽スヘシ

第九條 教室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮スヘシ

第十條 通學生ハ其ノ宿所ヲ生徒監ニ届出ツヘシ

第十一條 通學生ニシテ外泊七日以上ニ亘ル者ハ豫メ其ノ旨生徒監ニ届出ツヘシ

第十二條 集會ヲ催サントスル時ハ代表者ヲ定メ三日前迄ニ其ノ詳細ヲ生徒監ニ申出テ指示ヲ受クヘシ

第十三條 學校ノ器物ハ鄭重ニ取扱フヘシ若シ汚損又ハ亡失シタル

トキハ直ニ其ノ旨生徒監ニ届出テ指示ヲ受クヘシ

第八、 寄宿舎規則

第一條 寄宿舎ハ健全ナル協同生活ヲ達成シ校風ノ中堅タランコトヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條 寄宿生ハ生徒監ノ指示ニ從フヘシ

第三條 寄宿舎ハ夏季休業中ハ之ヲ閉鎖ス

冬季春季ノ休業中ハ之ヲ閉鎖セサルモ場合ニヨリテ外泊ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 寄宿生ハ濫ニ退舎スルコトヲ許サス

第五條 寄宿舎ニ於テ治療シ難キ疾病ニ罹リタル者ハ一時退舎セシムルコトアルヘシ

第六條 寄宿生ニシテ授業ヲ缺ク者ハ其ノ都度生徒課ニ申出ツヘシ

第七條 寄宿生ハ外出ノ際必ス制規ノ服裝ヲナシ又ハ制帽及袴ヲ着クヘシ

第八條 寄宿生ハ所定ノ日課時限ヲ守ルヘシ

第九條 寄宿生ハ生徒監ノ許可ナクシテ歸省、旅行又ハ外泊スルコトヲ許サス

第十條 自習時限以後ニ歸舍シタル者ハ直ニ其ノ事由ヲ申出ツヘシ

第十一條 寄宿料ハ本校收入官吏ニ納付シ食料ハ生徒監ノ檢證ヲ經テ賄方請負人ニ支拂フヘシ何レモ所定ノ期日ヲ誤ルヘカラス

第十二條 集會ヲ催サントスルトキハ豫メ届出ツヘシ

第十三條 寄宿生ハ食事ニ關シ賄方ニ直接交渉スヘカラス

第十四條 寄宿舍備付ケノ物品ヲ破損シ若クハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ辨償セシム

第十五條 寄宿生ニシテ其ノ本分ニ背ク行爲アルトキハ情狀ニヨリ

退舍ヲ命シ又ハ本校規則第九章ニ依リテ處分スヘシ

第九、生徒服制及服裝規定

第一條 生徒ノ服制左ノ如シ

制		種	
第一	第二	第一	第二
地質	地質	前地質	前地質
黑絨	真鍮製金色本校徽章 如圖	眼底	黑革
		頤紐	黑革 釦(金色)
		橫章	白線 二條
		制式	佛蘭西形
前章	第一種制帽ニ同シ		
地質	麥藁 緣幅凡三寸		

襟章	脚絆	靴	日履	外套		制服
				制式	地質	
文科ハL 理科ハS(金色)	卷脚絆 カーキ色絨又ハ綿布	編上ゲ又ハ短靴 黒革又ハ黒「ズック」	普通 薄白布	乘馬形 如圖(金色)	濃紺絨 如圖(金色)	夏服ニ同シ

制服				帽種
冬服		夏服		
袴	衣	袴	衣	横章
制式	制式	制式	制式	
濃紺絨ヘル類若クハ濃紺小倉	濃紺絨ヘル類若クハ濃紺小倉 如圖(金色) 夏服ニ同シ	普通 霜降小倉	如圖(金色) 脊廣形立襟(稜角形) <small>ポケットハ上衣ノ左右 両脇及左胸部ニ各一個</small>	普通形 海老茶地織込白線二條

第二條 授業若クハ儀式ノ爲メ登校スル時ハ必ス第一種制帽及制服ヲ着用シ靴ヲ穿ツヘシ

但シ体操授業ノ際ハ必ス脚絆ヲ着用スヘシ

第三條 前條以外ノ場合ニ於テハ校ノ内外ヲ問ハス必ス第一種制帽ヲ被制服若クハ和袴ヲ着用スヘシ

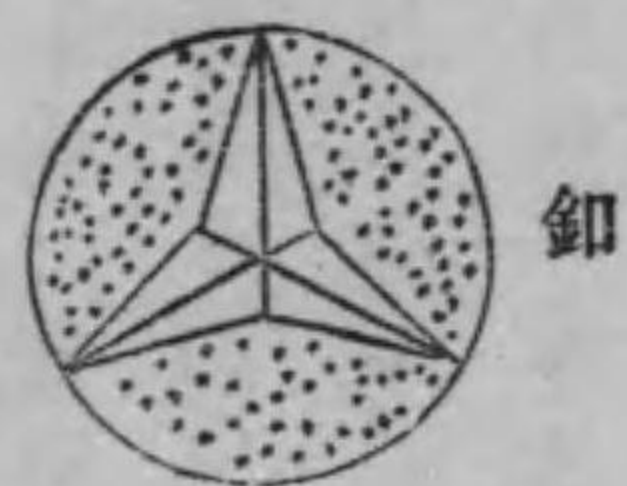
第四條 止ムヲ得サル事由ニ依リ制服ヲ着用スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ記シ之ヲ届出ツスシ

第五條 夏服用ノ期間ハ五月十六日ヨリ十月十五日迄トス此間第一種制帽ニ日覆ヲ附スヘシ但シ事宜ニヨリ本文ノ期間ヲ短縮スルコトアルヘシ

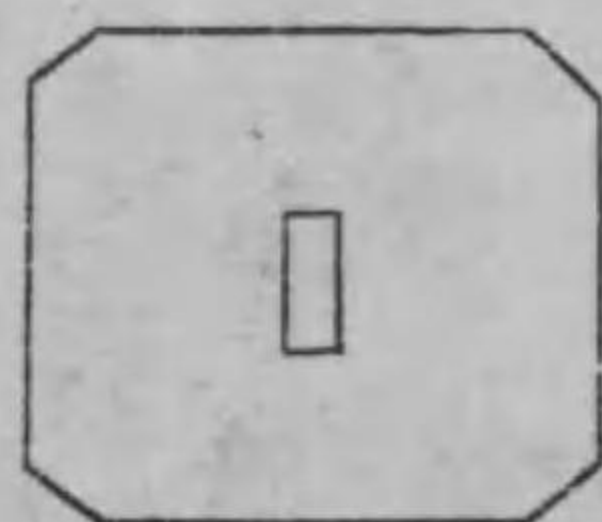
第六條 夏服用ノ期間ニ在リテハ第二種制帽ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式若クハ体操ノ際ハ第一種制帽ヲ用フヘシ

第七條 新入生徒ニ對シテハ十月十六日迄制服着用ヲ猶豫ス但シ靴

實物ト等シキ寸法



徽章



ハ登校當日ヨリ必ス穿ツヘシ

第八條 外套ハ便宜將校マントヲ着用スルコトヲ得色ハ黒又ハ紺ニ
限リ長サハ甚シク膝ヨリ下部ニ達セサルモノトス

第十、物品會計規程細則

第一條 物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會
計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理ス

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ノ二種トシ區別ハ其性質及用法
ニ依リ學校長之ヲ定ム

第三條 備品中各部共用ニ使用スルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ
専用スルモノヲ専用備品トス

第四條 各部ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ物品ノ監守及取扱
ノ責ニ任セシム

但專用品ニ就テハ專用者其責ニ任スヘシ

第五條 各部ニ於テ所要ノ物品アルトキハ品目數量所要ノ事由等ヲ詳記シ當該主席者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ請求スヘシ

第六條 會計課ニ於テ前條物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ但場合ニ依リテハ其數量ヲ減シ又ハ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第七條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ヲ受領シタルトキハ帳簿又ハ證書ニ捺印シテ受領ヲ證スヘシ

第八條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ヲ受領シタルトキハ直ニ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ記帳スヘシ

第九條 各部ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ速ニ會計課ニ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ

將來使用ノ見込アルモノハ保管ノ手續ヲナシ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十一條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ其事實ヲ詳記シ會計課ニ報告スヘシ會計課ハ之ヲ調査シ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十二條 自然破損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記シ且記名捺印スヘシ

第十四條 物品會計官吏ハ毎年一回以上各監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現品ヲ對照査閲シ異狀ヲ認メタルトキハ學校長ニ申報シ其處分ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 物品ノ出納ヲ明確ナラシムル爲物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一、備品出納簿

本簿ハ器具機械標本圖書ニ分類シ品目數量價格納人及渡シ先等ヲ記シ其出納ヲ明瞭ニスルモノトス

但機械標本ハ各學科別ニ圖書ハ部門毎ニ口座ヲ設クヘシ

二、消耗品出納簿

本簿ハ消耗品ノ品目數量價格納人及渡シ先等ヲ記シ其出納ヲ明瞭ニスルモノトス

三、備品支給簿

本簿ハ命令文書ニ基キ支給シタル備品ノ品目數量番號受授年月日等ヲ記シ物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用者トノ受授ヲ明ニスルモノトス

四、消耗品支給簿

本簿ハ支給シタル消耗品ノ品目數量受授年月日等ヲ登記シ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ受拂ヲ明確ニスルモノトス

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任ハ物品ノ出納保管ヲ明ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一、備品監守簿

本簿ハ物品監守者之ヲ所持シ備品ノ品目數量價格番號及受拂ノ年月日ヲ記入スルモノトス

但圖書機械標本ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用スルコトヲ得

二、消耗品受拂簿

本簿ハ物品取扱主任之ヲ所持シ受領シタル消耗品ヲ每品口座ヲ設ケ受拂ヲ明確ニスルモノトス

一、郵便切手受拂簿

本簿ハ文書發送取扱者ニ於テ備付其受拂ヲ詳記スルモノトス

第十七條 學校長ハ物品検査ノ爲メ物品検査委員長一名委員若干名ヲ設ケ職員中ヨリ之ヲ命ス

物品検査委員長及委員ノ任期ハ一ケ年トス

第十八條 検査ヲ分チテ定期及臨時ノ二トス
定期検査ハ毎年一回之ヲ施行シ臨時検査ハ必要ト認めタルトキ臨時ニ之ヲ施行ス

第十九條 物品検査ノ時日ハ委員長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ通知スルモノトス
但臨時ニ施行スルモノハ此限りニアラス

第二十條 物品検査委員ノ検査スヘキ要項左ノ如シ

一、物品保管ノ適否

一、物品亡失毀損ノ有無

一、物品ノ使用並ニ消費ノ適否

一、出他必要ト認めタル事項

第二十一條 物品検査ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏又ハ代理者使用中ノ物品ニ就キテハ物品監守者又ハ物品取扱主任検査委員ノ質問ニ應スヘキモノトス

第二十二條 物品検査委員其検査ヲ終リタルトキハ検査上ノ顛末及意見ヲ具シ委員長ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

第二十三條 本規程第十五條第十六條ニヨリ設ケタル帳簿ノ様式ハ別冊ノ通之ヲ定ム

(帳簿様式ハ略ス)

第十一、圖書取扱規程

- 第一條 總テ本校ノ圖書ハ圖書課ニ於テ取扱フ
- 第二條 圖書課掛員ノ外圖書類ノ出納ヲナスコトヲ得ス
- 第三條 本校教官ハ掛員ヘ通知ノ上書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得
- 第四條 本校職員ハ所定ノ借用證ヲ納レ職務上必要ナル圖書ヲ室外ニ持出スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テソノ保管ノ責任ハ署名者ニアルモノトス
- 第五條 貴重圖書類并ニ辭書類ハ閱覽室外ニ持出スコトヲ得ス但シ校長ノ許可ヲ得タルモノハコノ限ニアラス
- 第六條 教官ハ一時ニ十部三十冊事務員ハ二部六冊ヲ限リ圖書ヲ借受クルコトヲ得但シ和漢裝訂ノ圖書ハ右ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得

得又完冊ヲナサ、ル雜誌類ハソノ冊數ヲ制限セス

第七條 必要ニ應シ教官室特別教室及事務室ニ備付クル圖書ハ第六條ノ制限外トス

第八條 本校職員ニシテ受持學科以外又ハ執務用以外ノ圖書ヲ借受ケントスルトキハ當該圖書所屬學科主任ノ承認ヲ經ヘシ

第九條 總テ借受ケタル圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十條 借受ケタル圖書ハ毎年七月一日マテニ全部返納スヘシ但シ時宜ニヨリ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第十一條 借受ケタル圖書ヲ毀損若シクハ紛失シタルトキハ當人ヲシテ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ償ハシムルコトアルヘシ

第十二條 他ヨリ寄託又ハ借入レタル圖書ハ圖書課所藏ノ圖書ト同様ノ取扱ヲナス但シ圖書所有主ノ希望ニヨリテ特別ノ取扱ヲナス

コトアルヘシ

第十三條 寄託又ハ借入圖書ハ一切閱覽室以外ニ帶出スルコトヲ得ス

第十四條 不慮ノ災難ニヨリテ寄託圖書ノ損亡ヲ來スコトアルモ本校ハ其ノ責ニ任セス

第十五條 生徒ハ學年ノ初ニ於テ圖書課ヨリ圖書閱覽票ヲ受取ルヘシ

第十六條 總テ圖書ヲ借受又ハ閱覽セントスルモノハ所定ノ用紙ニ書名冊數番號姓名年月日等ヲ記入シ閱覽表ヲ添ヘテ掛員ニ差出シタル上之ヲ借受若クハ閱覽シ終了次第直ニ返納スヘシ

第十七條 生徒ハ一時ニ三部六冊ヲ限リ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得但シ和漢裝訂ノ圖書ハ右ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得

第十八條 閱覽室ハ左記ノ日ヲ除ク外毎日午前八時ニ開キ午後九時

ニ閉ツ但シ時宜ニヨリ之ヲ變更シ又ハ臨時ニ之ヲ閉ツルコトアル

ヘシ

・ 一日曜日及祝祭日

一 本校創立記念日(四月十五日)

一 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

一 四月一日ヨリ四月七日マテ

一 七月十一日ヨリ九月十日マテ

第十九條 閱覽室ニ入ル者ハ左ノ條項ヲ嚴守スヘシ

一 閱覽票ハ他人ニ貸付スヘカラス

一 閱覽票ヲ紛失シタルトキハ速ニ係員ニ届出ツヘシ

一 閱覽室ニ於テハ喫煙音讀雜誌等他人ノ障礙トナル舉動ヲナスヘ

カラス

一 閱覽室ニハ圖書文房具類ヲ除ク外物品ヲ携帯スヘカラス

一 閱覽室ニ於テハ制服又ハ袴ヲ着用スヘシ
 第二十條 右ノ規程ニ違反シタル者ハ圖書ノ閱覽ヲ禁スルコトアル
 ヘシ

○職員

(大正八年十二月一日現在)

學校長	文學士	由比質
教授	文學士	三並良
修身、獨語	文學士	中目覺
地理、英語、獨語	文學士	內田新也
獨語	理學士	神谷辰三郎
植物、自然科學	文學士	金子幹太
歷史	文學士	名須川良
英語	生徒監	文學士
修身	文學士	根岸和一郎
國語	文學士	高木武
漢文	文學士	今村完道

數學

理學士

山村敬一

圖書

陸軍歩兵中尉

早崎勸

地質、鑛物

理學士

森下正信

法制、經濟

法學士

北川淳一郎

講

師

體操

陸軍歩兵少佐

堀家正文

體操

陸軍歩兵大尉

村上福次郎

劍道

陸軍歩兵軍曹

十龜秦吉

柔道

越智侶一郎

柔道

衛藤勝三郎

書記

河東濬太郎

物品會計官吏

角南惠三郎

田中鶴之助

白方肇

日詰忠明

大野武之助

井上信次郎

醫學士

本田理雄

木村亘

中井茂樹

名須川良

教授

雇

學校醫

學級主任

文科第一學年甲類

文科第一學年乙類

教授 三並良

理科第一學年甲類

教授 山村敬一

理科第一學年乙類

教授 神谷辰三郎

學科主任

英語

教授 名須川良

獨語、修身

教授 三並良

體操

講師 堀家正文

事務分課

課長 教務課

課長

教頭 教授 中目覺

教授 金子幹太

書記 田中鶴之助

雇 大野武之助

課長

生徒課

生徒監 教授 根岸和一郎

講師 堀家正文

講師 村上福次郎

講師 十龜秦吉

(兼) 書記 角南惠三郎

課長

圖書課

教授 神谷辰三郎

教授 高木武

(兼) 書記 白方肇

(兼) 雇 大野武之助

課長

庶務課

教授 北川淳一郎

福高愛香徳和山廣岡島島富石福秋山青岩

歌

岡知媛川島山口島山根取山川井田形森手

一六^二六三一三|八五|||一|||

二四^二七三六三一四二-|||

三、〇^一三^五六七六一二.七-|||

福宮長岐滋山靜愛三奈栃茨千群埼新長兵

島城野阜賀梨岡知重其木城葉馬玉湯崎庫

|||一|||二||-|||---三

||-||二||-||-|||五

||-||二||二||-||-||-||一八

總計	大分	佐賀	熊本	宮崎	鹿島	沖繩
八〇	四	一	一	一	一	一
八〇	三	一	一	一	一	一
一六〇	七	一	一	一	一	一

○生徒年齢調

(大正八年九月三十日調)

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
文科第一學年甲類	二三年一ヶ月	一六年八月	一九年二月
文科第一學年乙類	二二年一〇ヶ月	一六年六月	一九年一月
理科第一學年甲類	二六年二月	一六年三月	一八年七月
理科第一學年乙類	三〇年九月	一六年四月	一九年五月

○附錄

松山高等學校校友會規則

第一條 本會ハ松山高等學校校友會ト稱ス

第二條 本會ノ目的ハ會員ノ親睦ヲ厚ウシ知徳ヲ研キ體育ヲ奨メ校風ヲ發揚スルニアリ

第三條 本會會員ヲ分チテ左ノ二種トス

一 通常會員 (生徒)

一 特別會員 (職員)

第四條 本會ニ左ノ各部ヲ置ク

一 劍道部

一 陸上運動部

一 蹴球部

一 弓道部

一 庭球部

一 水泳部

一 短艇部

一 雜誌部

一 辯論部

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 校長ヲ推戴ス

一 副會長 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス

一 會長ヲ補佐シ兼テ評議會ヲ整理ス

一 幹事 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑シ部務ヲ監理ス

一 委員 通常會員中ヨリ互選シ事務ヲ分掌ス

一 委員ノ數左ノ如シ

一 雜誌部 各四名

一 其ノ他 各二名

一 事務員 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス

第六條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年四月ニ更任スルモノトス

第七條 通常會員ハ入會金貳圓及在學中ノ會費トシテ金拾八圓ヲ入學ノ際本校會計課ヘ納付スヘシ但既納ノ會費ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

特別會員ハ會費トシテ毎月俸給月額百分ノ一ヲ出金スルモノトス入會金貳圓ハ事業基金トシテ積立ツルモノトス但基金ノ使途ハ委員會ノ決議ヲ要スルモノトス

第八條 委員會ハ左ノ事項ヲ議スルモノトス

一本會豫算臨時支出及決算報告

一本會規則ノ改正

一 其ノ他會長若クハ各部ニ於テ重要ト認メタル事項

委員會ニ出席スヘキ者左ノ如シ

會長

副會長

幹事

各部委員

委員會ノ決議ハ會長ノ認可ヲ經テ効力ヲ生スルモノトス

第九條 毎年度ノ收支決算報告ハ本會雜誌ニ掲載ス

第十條 會計検査ハ互選ニヨル特別會員二名及通常會員四名ヲ以テ之ヲ行フ

第八條 委員會ハ本會ノ事務ヲ執行スルニ當リ、其ノ決議ハ本會ノ最高ノ決議トシ、之ヲ遵守スルベシトス。委員會ハ本會ノ利益ヲ保護スルニ當リ、必要ノ場合ニ本會ノ事務ヲ停止スルコトヲ得。委員會ハ本會ノ事務ヲ執行スルニ當リ、必要ノ場合ニ本會ノ事務ヲ停止スルコトヲ得。委員會ハ本會ノ事務ヲ執行スルニ當リ、必要ノ場合ニ本會ノ事務ヲ停止スルコトヲ得。

大正九年二月廿七日印刷
大正九年三月五日發行

松山高等學校

廣島市大手町五丁目

印刷者 八木秀太郎

廣島市蓋屋町

印刷所 増田兄弟活版所

283
18

終

